

さざんか

第58号、2006年6月

今年も梅雨の季節になりました。毎年おとずれる自然現象。時間は取り返すことが出来ないまま過ぎていきます。季節は春から初夏へ、梅雨へと。繰り返す日常。誕生から、成長、成熟、老化、そして自然に帰っていくあまたの生命もまた全体としては同じようくり返しているのでしょうか。悠久の時間と際限ない繰り返しの季節の中でも、一人ひとりの時間と生命はただ一つで、一回きりです。一人ひとりの人生には繰り返しかえしはありません。幼い子供たちの命が思いもかけない形で失われてしまう犯罪のことを見聞きするたび心が痛みます。「安全と水は無料（ただ）」であった古きニッポンの時代は確実に終わりつつあるのかもしれませんが。一方、安全と水とは比べものにならないくらい、医療や福祉にはお金がかかります。自力でできること。理屈からは病気をしたり寝たきりになったりするから医療や福祉が必要になるのですから、死ぬまで元気でいて医療費や福祉費を使わないですむよう頑張ってみましょう。天命まで生きていきましょう。人類史上最高の長寿を記録している国民のひとりとしてさらに長寿記録を伸ばしましょう。ただし、福祉国家という言葉が幻想になりつつある現在、長生きして良かったと思える社会環境が整うかどうかは他力本願になりますけどね。国は国民のためにあるはずですけど、今の国の大きな目標の一つは医療・福祉費の削減です。どこかで、あるいは誰かが目標修正してくれないものでしょうか。いきいきと長生きできる環境があれば、ぜひとも長生きしてみたいものです。

県立北薩病院の基本方針

- 1 患者さんの満足、ご家族の安心を提供します
 - 2 急性期医療の実践と、より高い専門医療を追求します
 - 3 地域の医療、福祉との連携を強め、これを支援します
 - 4 仕事を通して喜びと生き甲斐を追求します
-
-

河童の居眠り

大正の昔私が河童に出会ってから10年位後の事です。集落にKさんと云う、おぢいさんが住んでいます。そのKさんが小学6年生の時の話です。ある夏の日、旧湯乃尾駅の下の天ヶ淵に魚釣りに行きました。駅の線路を超え田んぼの畦道を通り、用水路を渡り川堤防の竹藪の細い道をくぐり抜け、そーと川に出ますと、向岸の岩の上に赤ん坊位の子供が両手で両膝を抱えて居眠りをしているのが見えました。Kさんは「しまった」と思いアレは河童だとびっくりし、驚きました。Kさんはそーと後に退り身を隠し「エヘン」と咳払いしてから出て見たらもう河童の姿はありませんでした。それからKさんは恐くなり魚釣りに行かなくなったそうです。（注：Kじいさんは83歳健在です）

この天ヶ淵では昭和5年頃と昭和25,6年頃の2回、子供の水難事故があり不思議な事に2回とも子供が1人で深い淵にどンドン入水し「ニッコリ」笑って沈んでいったという事でこれはきっと河童の仕業かも知れんと思っていました。戦後の水難事故の時は私もすぐ天ヶ淵にかけつけました。子供たちの話では、水遊びに行き泳ぎ疲れたので砂浜に寝ころんでいたら、1人が急に起きあがり深い淵にどンドン入水し、「ニッコリ」笑って沈んでしまったとの事で、集落は上へ下への大騒ぎとなり皆んな天ヶ淵に集まり、水泳の出来るものは淵に潜り、或る者は舟を漕ぎ、淵に金物を投げ入れ、馬鍬に縄をつけて川底を引張り、日の暮れるまで探しましたが、発見されませんでした。消防団では、縄で網を作り湯乃尾橋に張り通夜監視しました。それから丁度7日目に天ヶ淵に浮き上がり、岸で発見されました。

年寄りのすばらしい助言

宮園辰夫

若い人に何か言いたいことはありますかと、聞いた。すると若者をバカにしないで下さい。若い人はすばらしいと思いますと答えた。

この前、寝タバコを吸っている中高生がいたんです。所が、黙っていりゃあいいものを、その女子学生のそばに行って注意したんです。どんな風に注意したかと言うと、「あなたはまだ若いでしょ。若いうちからタバコを吸うとね、体に毒が回って立派な子供を産むことが出来ないから止めなさい」と言ってやった。「吸いたかったら年寄りになってから吸いなさい」、と言った。年とってからではもう吸うことはないと分かっていたから。

そしたら1週間位してから、その子と親と、おばあちゃんが来て、素晴らしいことを言
って下さいました。そのおばあちゃんが孫がタバコを吸っているとは全く知りませんでした。
この子が泣いて言うのです。知らないおばあちゃんに注意を受けた。立派な子供が産
めなくなるからすぐ止めなさい、って注意された。私は結婚したら赤ちゃんがほしいから、
今日からタバコは止める。母さん、本当に止めるって。そんなに言った時、そのおばあ
ちゃんのうちに行って一言も二言もお礼がいいたい。自分のしていることが悪いとわかって、
お母さんやおばあちゃんに言うことの出来た娘さんは本当にえらい。でもえらいのは年寄
りの助言。

今は下手に若いものに注意すると、反対にとんでもない痛い目に逢う。しかし勇気を
持って注意することは誠に難しい。けれども、素直に聞いてくれる若者もいることはゆが
めない。しかし、今の世の中にこんな素直な子供さんはめずらしい。親を殺したり、子供
の虐待、いじめ、数に限りがない。それからみると年寄りはずばらしいと思う。何の指導
もなく、教育もなかったのに、努力した経験を、それぞれが寄せ合った知恵ですばらしい
発見を我々に残してくれる。今昔の人がした事、言った事が間違いないとよく聞かされる。
あの細木数子さんは言う。昔の人の言葉には金の言葉があると。全くそう思われます。

短歌

木立集より 宮園辰夫

戦後の食糧とぼしき生みし吾が子背高低きは罪なりしや

両の手に余る程の薬受取りて病院出ずれば暖かき夏の日

野火の音より 山本フサ

六月の客人^{まろうど}として井戸端の水飲みてゐる黄のすずめ蜂

菜種田に夏の気配の濃くなりて青く涼しく莢ふくらめり

さつま狂句**きんかん**

しら^がはげ^{はげ}
白髪や禿は年が正直

いみ^{いみ}か^かか^か
厳し女房い良か女房ぢやっちは云^{いう}ち

俳句**西屋敷 喜美子**

梅雨入りや 洗面台を 磨きあぐ

故郷を 忘るる日あり 夏来る

老衰のススメ**比呂木 航平**

その1)

最後の日が来るのを我が家で静かに待ちます。段々と食欲がなくなりそのうちスープくらいしか飲めなくなってきました。だけど、そのスープは家族が心を込めて作ってくれた最後の晩餐みたいなものです。ずっと意識はしっかりしていたが、さすがにすこしずつボーとしてきました。いろんなことを思い出します。いや、かつてに沢山の情景が頭に浮かんでくるのです。野山を駆け巡った少年時代。ザリガニ取り。初恋の女の子。楽しかった学生時代。つらかった戦争。多くの友人を失った。食料がなかった終戦後。結婚し子供が生まれた。仕事一筋の人生だったなあ。子供も成長して家庭を持ちいまこうして最後はそばに居てくれる。友人たちと酒を酌み交わした時の楽しかったこと。随分酔っ払ってはめも外したなあ。家族旅行出発前のひと騒動。切符はどうした。早くしないと乗り遅れるよ…。すくすく育つ孫たち。もう十分生きてきたもんなあ。まあいい人生だったよなあ。遠のく意識の中で、妻の、息子の、娘の、そして幼い孫たちの自分と呼ぶ声が聞こえる。みんなありがとう。元気で暮らせよ。先に行って待っているからな。だけどお前たちはあわててくるんじゃないぞ。じゃあな。

: 最後の一月の医療費 : 0 円

その2)

いったいどうしたのだったかしら。ああ、そうだったわね。食事の途中で急に眠気が来てそのまま寝てしまったのだったわ。朝ごはんだったかしら。それともお昼だったかしら。あら、めずらしく姪や甥たちの家族が沢山きてるわ。今日は誕生日かなにかだったかしら。いやいやそんなことはないわね。誕生日はいつも施設のみんなと一緒に祝うものだったものね。この人達が誕生日に来たことなんてありやしなかったわ。ああ、そうか、わたし、やっと老衰できそうなんだ。だってもう95歳だものねえ。長かったような短かったような人生だったわねえ。いやいやそんなことはないわね。長くて素敵な人生だったわ。結婚もせずに仕事ひと筋。でも女一人で5軒もお店をもつなんて大したものだったわ。楽しかったわあ。沢山の恋があったしねえ。なかでも、あの時、あの人について行っていたら……。

まあ、きままな人生だったわね。ふふ。姪や甥たちはあたしの遺言みたらびっくりするでしょうね。財産はぜーんぶ恵まれない子供たちの施設に寄付だなんてね。ざまーみろだわね、お金の亡者たち。ああ、なんか体がふわふわしてきたわ。そろそろいくのかしら。ああ、いまがいちばん幸せだわ。あの人は約束通り待っていてくれるかしら。

：最後の一月の医療費：老人ホーム代込みで15万円。遺産10億円。

その3)

おれは家で死にたかったけど、どうしても息子が許してくれなくてね。まあ、でもこの病院なら死に場所としてはいいかもしれないね。先生や看護師さんもなじみだしね。もう何回ここに入院したことだろう。俺のここ20年の生活の場でもあるなあ。こんな小奇麗で清潔な部屋は今度が初めてだなあ。これが最近できた緩和ケア病室っていうらしいね。いいね、これなら。遠くから来た娘たちも泊まれるしね。あれ、だんだん目がかすんできたぞ。そうか、もうそういうことなのか。うん、うん。いいね。こういう感じで死んでいけるのは。ああ、みんな集まってるね。おお、泣いてるぞ、泣かなくていいのにね。世の中には、早くで閉じざるを得ない人生がたくさんあるっていうのに、おれなんかもう1世紀近くも生きてこれたのだよ。もう、疲れたわ。早く楽になりたいのだから、みんな泣かないで笑っておくれ。いや、でも、泣いてもらうのも、まあ、悪くないね。うん、うん。これもまたいいね。そうだ。それもいいぞ。泣いてもいいし笑ってもいいし。ああ、眠たくなってきた。もう起きなくてもいいのだなあ。なあんだ、死ぬってのもいいものだったんだなあ。そろそろいきましょうか。

じゃあ、皆さんグッバイ。

：最後の一月の医療費：自己負担8万円。

こういう死に方をすれば、あまりお金はかかりませんし、家族にも迷惑はかけずにすみます。みなさん、老衰を目指しましょう。ではどうすれば老衰というかたちで最後を迎えることができるのでしょうか。方法は一つ。まず死ぬまで元気であること。当たり前ですけ

どね。要するに長生きすることですね。若くして寝たきりとかにならないように注意することです。そしてできるだけ最後は病院にかからないほうがいいでしょうね。病院で「老衰」と診断するのは意外と難しいものです。何も処置をせずに見送ることは実は難しいのですが、それでも「何もせずに静かに見守る」という治療法もあると思いますので、どうしてもそのときは病院でも仕方ないでしょう。

言うは易く行うは難し。長生きするにはどうしたら良いか。ピンピンコロリ（生きているときはピンピンしていて、死ぬときは苦しまずにコロリと死ぬ）は誰しものが望むことですがとても難しいことです。とりあえず今ある病気を地道に主治医と相談しながら克服、コントロールしていくというのがいまでできることでしょうか。もう少しひとりひとりとお話しできる時間が取れるようなゆとりのある主治医だったらいいのでしょうかね。

「からだの言葉」：腹編

「からだの言葉」雑記（綱島裕 著）より

今回は、五臓六腑を包み込んでいるおなかの言葉です。ちなみに5臓六腑とは

5臓：肝、心、脾、腎、肺

6腑：胆、小腸、胃、大腸、膀胱、三焦 を言います。

腹が大きい

腹を立てる、腹が煮えくり返る

腹が座る

腹を括る、腹を固める

腹の皮が張れば、目の皮がたるむ（満腹になると眠くなる）

満腹は怠け者を作る（ドイツのことわざ）

腹の虫が治まらない

腹に一物

腹を肥やす

編集後記

4年に1度のワールドカップが開催されています。前回、2002年日韓共同のワールドカップが終了したときは、ああ、次のドイツまでは長いなあと思ったものですが、まさに光陰矢の如し。4年間は早かった。一日一日はすごく長く感じる時があるのに、人の時間に対する感覚は不思議なものですね。主観こそすべてということでしょうか。

われ思う、ゆえにわれあり。でも一体その「われ」って何でしょうね。不思議。 高橋

発行所：県立北薩病院さざんか編集局 発行責任者：高橋浩一